

# 大豆管理情報（第1号）

令和8年7月1日

農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過

### (1) 気温

5月下旬の平均気温は、21.8℃（対平年差+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。

6月上旬の平均気温は、21.6℃（同+1.3℃）と平年に比べかなり高かった。

6月中旬の平均気温は、23.1℃（同+1.8℃）と平年に比べかなり高かった。

6月下旬の平均気温は、22.4℃（同-0.1℃）と平年並であった。

### (2) 降水量

5月下旬の降水量は、35.5mm（対平年比98%）と平年並であった。

6月上旬の降水量は、39.0mm（同185%）と平年に比べ多かった。

6月中旬の降水量は、42.5mm（同82%）と平年並であった。

6月下旬の降水量は、48.0mm（同48%）と平年に比べ少なかった。

梅雨入りは、6月20日（前年5月22日、平年6月11日）と平年に比べ9日遅かった。

### (3) 全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、18.4MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比96%）と平年並であった。

6月上旬の平均全天日射量は、16.7MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比85%）と平年に比べ少なかった。

6月中旬の平均全天日射量は、23.3MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比136%）と平年に比べかなり多かった。

6月下旬の平均全天日射量は、17.0MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比113%）と平年に比べ多かった。

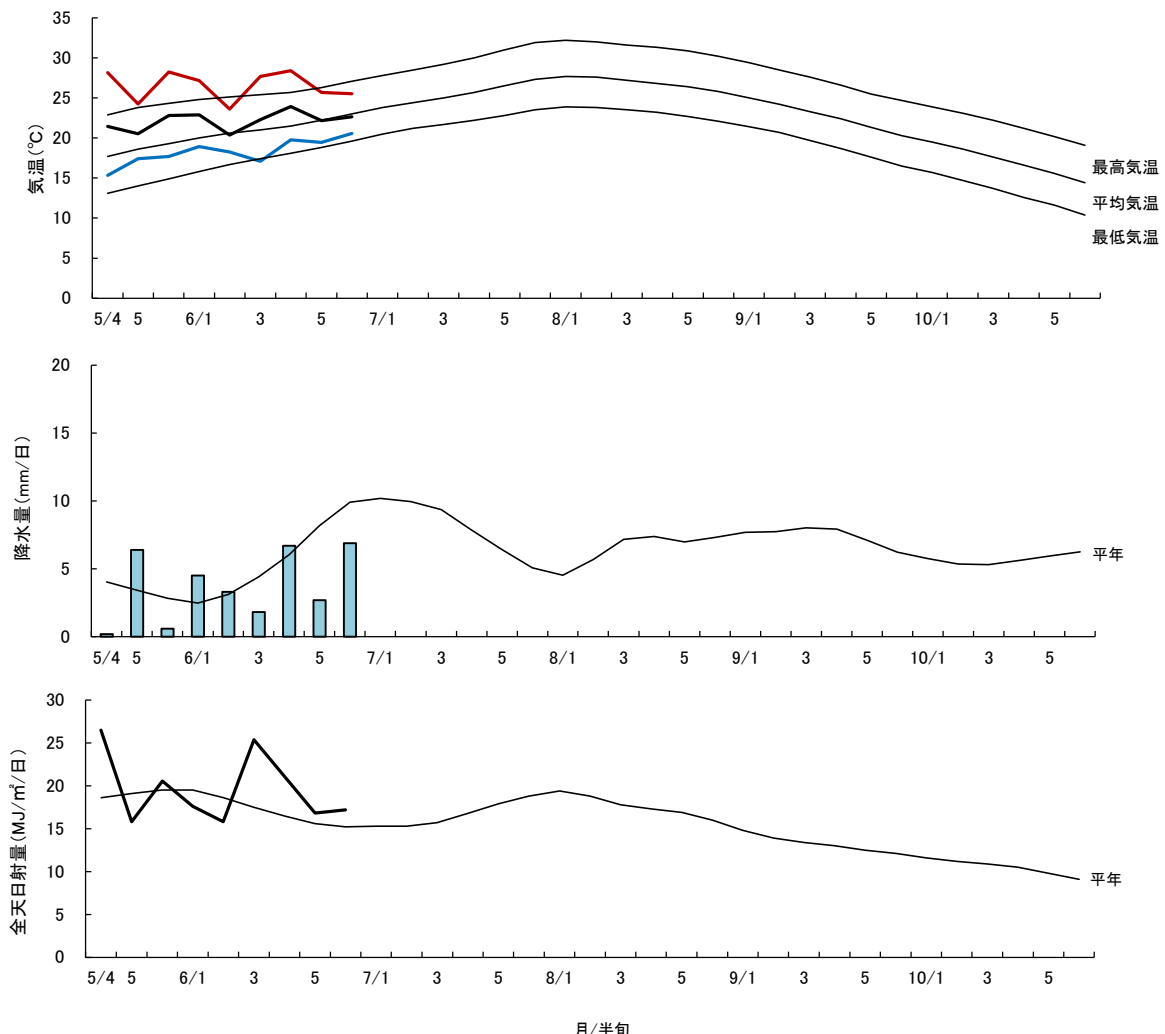


図1 令和8年の気象経過（富山地方気象台）

## 2 苗立・生育状況（生育観測ほデータ）

### (1) エンレイ（単作）

- ・近年に比べ、播種時期は6月5日と3日遅くなった。近年に比べ、苗立本数は16.7本/m<sup>2</sup>、苗立率は91.7%と並であった。
- ・近年に比べ、主茎長は22.3cmと並、本葉葉数は3.8葉と0.6葉少なくなっている。

### (2) エンレイ（麦あと）

- ・播種時期は、6月4日と近年に比べ1日早くなった。近年に比べ、苗立本数は17.2本/m<sup>2</sup>、苗立率は92.3%と並であった。
- ・近年に比べ、主茎長は18.9cmと並、本葉葉数は3.4葉と0.1葉少なくなっている。

### (3) シュウレイ

- ・播種時期は、6月7日と平年に比べ1日遅くなった。平年に比べ、苗立本数は16.4本/m<sup>2</sup>と多く、苗立率は94.3%とやや高くなった。
- ・平年に比べ、主茎長は18.1cmと並、本葉葉数は2.1葉と0.4葉少なくなっている。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（7月1日調査）

品種	年次	播種日 (月日)	苗立調査		生育調査			
			苗立本数 (本/m <sup>2</sup> )	苗立率 (%)	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	
エンレイ	単作	R8	6月5日	16.7	91.7	22.3	3.8	0.1
		R7	6月1日	16.7	91.3	28.2	5.5	0.0
		近年	6月2日	16.7	92.5	22.9	4.4	0.1
		近年比・差	3	100	99	98	-0.6	0.0
	麦あと	R8	6月4日	17.2	92.3	18.9	3.4	0
R7		6月7日	16.1	91.1	18.9	3.5	0.1	
近年		6月5日	16.6	92.3	18.3	3.5	0.1	
近年比・差		-1	103	100	103	-0.1	-0.1	
シュウレイ	R8	6月7日	16.4	94.3	18.1	2.1	0	
	R7	6月9日	11.7	83.1	18.9	2.5	0	
	平年	6月6日	14.8	88.5	17.4	2.5	0	
	平年比・差	1	111	107	104	-0.4	0	

注1) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作2、麦あと1)

注2) 平年値はH28~R7、近年値はR2~7

注3) 平年比(近年比): 苗立本数・主茎長、平年差(近年差): 播種日・本葉葉数・一次分枝数

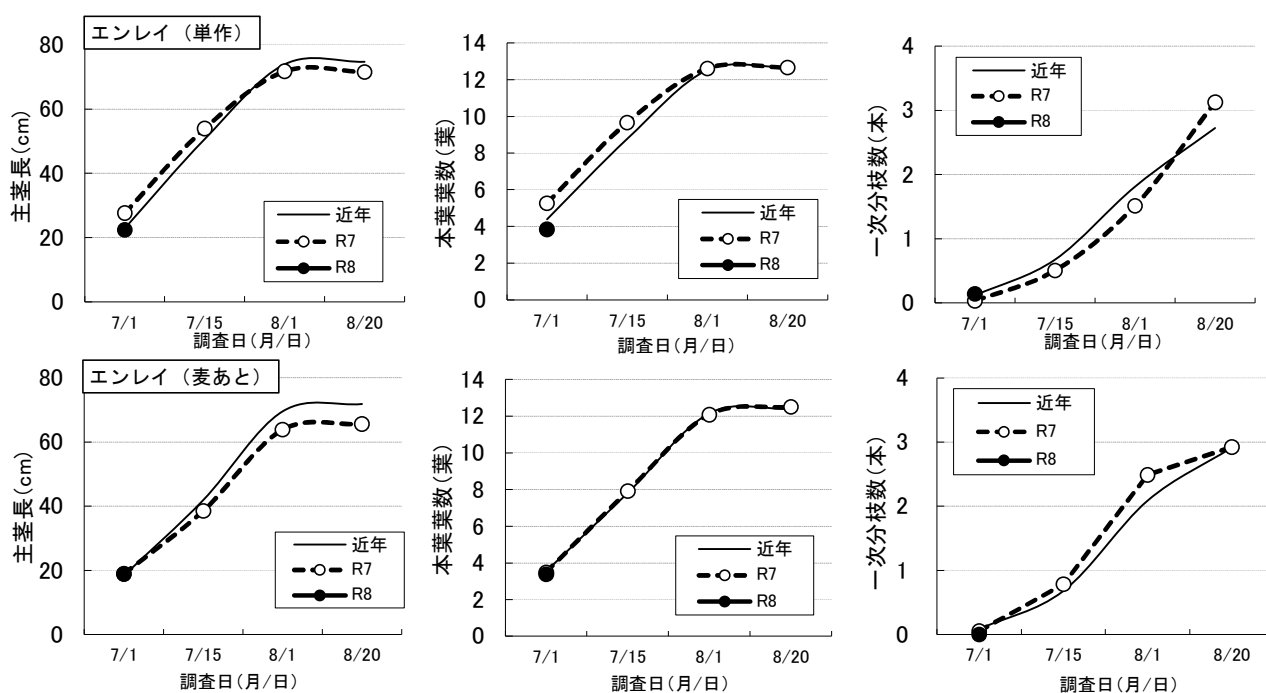


図2 エンレイの生育の推移

### 3 当面の技術対策

- ・ 湿害の回避及び速やかな培土作業の実施に加えて、畦間かん水時の排水を滞りなく実施するために、ほ場内の水が停滞しないように排水対策を徹底する。
- ・ 培土は適期に2回実施し、株元まで確実に土寄せを行う。
- ・ 雑草が多い場合は有効な茎葉処理剤を遅れず適期に散布する。
- ・ 開花期頃から晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を実施する。

#### (1) 排水対策の徹底

- ・ 湿害の回避及び速やかな培土作業の実施に加えて、畦間かん水時の排水を滞りなく実施するために、ほ場内の水が停滞しないように溝や排水溝の点検と手直しを行う。

#### (2) 確実な培土の実施

- ・ 培土は適期に2回実施し、株元まで確実に土寄せを行う(表2、図3)。  
 1回目の培土：2～3葉期(播種20～25日後頃)に子葉が埋まる程度  
 2回目の培土：4～5葉期(播種30～35日後頃)に初生葉が埋まる程度
- ・ 出芽が不揃いなほ場では、生育の早い株に合わせて培土を行う。なお、生育の遅い株が埋まらないように培土の高さを調節する。
- ・ 培土後は、培土でできた溝を額縁排水溝及び深く掘り下げた排水溝にしっかり連結し、ほ場内に水が停滞しないようにする。

表2 培土時期と培土高さの目安

	時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日頃)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日頃)	初生葉が埋まる程度

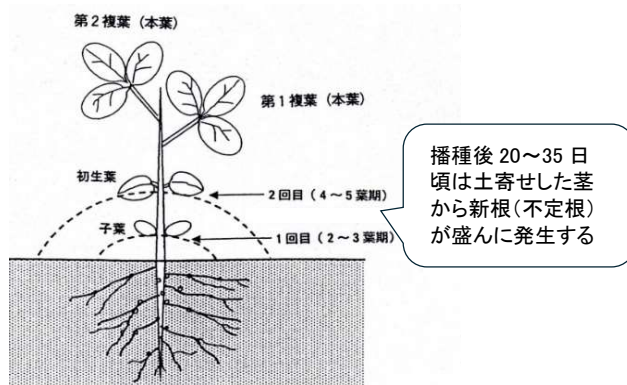


図3 培土時期と培土高さのイメージ

#### (3) 的確な雑草防除

- ・ 2回の培土を確実に実施し、雑草の発生を抑える。
- ・ 大豆の生育が進むと株元の雑草への薬剤付着率が低下するため、茎葉処理剤の全面散布では、有効な茎葉処理剤を遅れず適期に散布する。
- ・ 難防除雑草(帰化雑草等)が発生するほ場では、草種に応じて防除効果の高い除草剤を選定し、体系防除を実施する(表3、図4)。
- ・ 畦畔、農道等、ほ場周辺で難防除雑草の発生がみられる場合では、開花・結実前に非選択性茎葉処理剤の散布や地際からの刈取り等を行う。

表3 難防除雑草(帰化雑草等)に対する除草効果(目安)

草種	選択性		非選択性		
	茎葉処理剤				茎葉兼 土壌処理剤
	大豆 バサグラン液剤 (全面散布)	バスタ液剤 (畦間・株間)	ザクサ液剤 (畦間)	ラウンドアップ マックスロード (畦間)	ロロックス (畦間・株間)
帰化アサガオ類	▲(種間差あり)	○	○	▲	▲(種間差あり)
ヒユ類	▲(種間差あり)	○	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲(種間差あり)	○	○	○	○

注1) ○：効果が高い、▲：効果が劣る

注2) 登録内容(適用、使用方法等)を確認して使用する。

また、非選択性茎葉処理剤は、周りの作物にかからないように注意する。



図4 難防除雑草(帰化雑草等)に対する防除と管理の目安

#### (4) 開花期頃からの畦間かん水の実施

- 開花期頃から晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を実施する。
  - 高温・少雨が続き、干ばつによるしおれがみられる場合は、開花期前であっても、排水対策を徹底したうえで速やかに畦間かん水を実施する。
  - かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めて速やかに排水する。
  - 用水が下流域まで十分に行き渡るように、地域での計画的かつ効率的な水利用に努める。
- (参考) 開花期(生育観測ほ) 単作エンレイ近年値: 7/18(播種6/2)  
 シュウレイ 平年値: 7/22

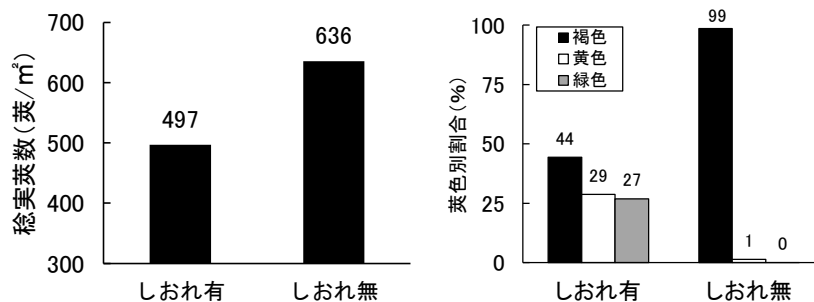


図5 開花期以降の水不足が成熟期の莢数や莢色に及ぼす影響(R5現地ほ場)  
 注)開花期~8月下旬までの降水量: 37mm

#### (5) 病虫害防除

##### ア 茎疫病

- 多湿条件で発生が多く、冠水は発生を助長する。
- 発生が認められた場合は、直ちにZボルドー粉剤DLやフェスティバルC水和剤等の薬剤を株元に十分に付着するように散布する。

##### イ 葉焼病(図6)

- 7月中下旬頃から発生し、強風雨で蔓延する。多発すると収量・品質が低下する。
- 蔓延防止には発生初期の防除が有効であるため、ほ場を巡回し、発生を確認した場合は速やかに「Zボルドー」等で防除する。
- 特に、シュウレイは発病しやすいため、7月中下旬頃に防除を行う。



図6 葉焼病による被害葉